

施政方針

本文は、市議会3月定例会で行った施政方針演説の一部を抜粋したものです。



高浜市長 吉岡初浩

【はつらむ】

「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかま」。

これは、本市がこれからの約10年間で目指していく姿、4月からスタートする第6次総合計画の将来都市像です。

高浜市は、住んでいる人、事業を営んでいる人など、さまざまな人たちの営みによって成り立っています。そうした人々たちを一つの家族、すなわち「大家族」と見立て、みんなで力を合わせて高浜市を創り上げていく。大家族が幸せに暮らせるようにするために、自分だけでなく、家族のためにできることは何か、まさに、これからの自治のあり方を的確に示した言葉であると感じました。

昨年12月には、高浜市制の歴史に記すべき、「自治基本条例」が可決され、本年は、その「自治基本条例」と「第6次総合計画」を両輪としたまちづくりを推進するスタートの年、高浜市における「市民自治元年」です。今一度初心に立ち返り、

地域へ足を運び、市民との対話を大切にしながら、スピードと誠意をもって共に行動していくという姿勢で、まい進していきます。

先例のない時代に向かおうとしている今、幾多の困難も予想されますが、解決策は自分たちで見つけるしかありません。考え方や視点を変えることにより、解決の糸口やチャンスは必ずあります。「一人では何もできない。しかし、まずは一人が始めなければならぬ。」という言葉があります。一人ひとりが持っている力を結集させることこそが「大家族たかま」であり、高浜市の未来を切り拓く大きなエネルギーとなっていく。市民と対話を重ね、知恵を出し合い、ともに汗を流していきます。これが、これからの高浜市が目指す自治の姿であり、私はそのような市政を目指してまいります。

【平成23年度の重点施策】

総合計画を「みんなで考え、みんなで行動する計画」としていくため、「総合計画推進会議」や作業部会として「高浜市の未来を創る市民会議」を設置し、市民とともに目標の達成度などを検証しながら、目標の達成に向けて行動していきます。自治基本条例を実効性のある「活きた条例」とするために、

市民と協働で普及・啓発活動を行います。

事業の再構築を目的にして、事業仕分けを6月に実施します。また、行政評価の実施に向け、PDC Aサイクルの仕組みを構築するとともに、予算の編成プロセスの見える化も進め、わかりやすい財政運営を進めま

す。今後の公共施設のあり方を検討するため、市民と職員で構成する「公共施設のあり方検討委員会」を設置し、公共施設にかかるコストなどの把握や分析を行い、公共施設のあり方計画の策定を行っていきます。

子どもを生涯学習の「根っこ」として捉え、本市の生涯学習のあるべき姿を描いた生涯学習基本構想を策定し、地域との関わりの中で自立や社会性の向上を図り、郷土に対する理解や愛着を育む環境づくりを進めま

す。安心して子どもを生み育てることができるよう、中学校卒業までの子ども医療費の無料化を引き続き実施します。

子育て中の家庭が各種支援についての情報を手軽に入手できるようにするため、子育て支援に関する情報を一元化し、ポータルサイトやメールマガジンなどを活用し、情報を提供します。

「コミュニティ・ビジネスの芽

を育むため、人材の発掘・育成に関するセミナーの開催や実用的な関連講座などを開催します。

観光については、市民とともに地域資源を掘り起こし、「見る」「食べる」「楽しむ」場としての魅力を磨き、広く知っていただけるような情報発信の強化に努めます。

環境に配慮したエネルギー活用を推進するため、LEDの防犯灯の交換を順次進めていきます。また、災害時の避難場所である都市公園に、ソーラーシステム型LEDタイプの公園灯を設置します。

地域の足である、いきいき号については、市内循環コースのほか、刈谷豊田総合病院本院コースを新設するなど、路線の見直しを実施します。

防災活動として、災害に関する講演会、勉強会や防災アドバイザーの助言を得ながら、地域全体で防災に取り組むためのネットワークを構築します。

いきいき広場3階において、「こども発達センター」の運用を開始します。子どもの発達に関する専門職を配置し、発達相談などを行い、保健師などの関係者を含めて、チームで子どもの成長を支援します。

チャレンジドの支援として、「障がい者相談支援事業所」に総合コーディネーターや就労担

当相談員を新たに配置します。高齢者が自らの力を発揮し、いきいきとした高齢期を過ごすことができるように、「いきいき健康マイレージ制度」を導入します。

【はつらむ】

山口県に「夢のみずうみ村」という、介護・リハビリの発想を大転換した運営で有名なデイ・サービスセンターがあります。そのユニークなネーミングの由来は、「夢は意思の塊。湖は底から水が湧き出ている。つまり、夢のみずうみとは、『こくなる』という想いが絶えず湧き出る場所。想いが一つでも実現すると、さらに元気の源泉が湖の底深くから、次から次へと湧き出してくる。湖から水があふれ出し、それが大きな川となり、やがて海原が見えてくる。』とのことです。私はこの話を聞いて、まちづくりも同じであると強く感じました。

私たちの愛するまち高浜市がこうなったらいいなあ、こうしていききたいと、一人ひとりが想い、行動していけば、必ず変わっていきます。大家族のみならず手と手を携え、そんな手ごたえや実感が得られるような市政経営を手がけてまいります。